

## P-20 口腔保健学科生の社会人基礎力の経年変化

○園木 一男<sup>1</sup>、井上 博雅<sup>1</sup>、日高 勝美<sup>1</sup>、秋房 住郎<sup>1</sup>、高橋由希子<sup>2</sup>、中道 敦子<sup>2</sup>  
<sup>1</sup>九歯大・口保健管理、<sup>2</sup>九歯大・口機能支援

社会人基礎力は、経産省が定義する「職場や地域社会の中で多様な人々と仕事を行っていく上で必要な能力」(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)とされ、その診断は、学生の就業力を本人や教員が確認でき、面談等の手段を講じることにより意識改革も可能となる。平成24年度より社会人基礎力診断を行っているが、平成27年度は1～4年生の全学年に本診断を実施し、従前の診断結果や他大学との比較を行い、本学科学生の社会人基礎力の推移と全国的な位置づけを把握することとした。

Webサイト上で3、4年生はsenior版、1、2年生はjunior版(各選択問題60問、日経HR)を回答した。3つの能力のスコアとその合計である総合スコアを解析した。

平成24年から27年の4年間で他大学より低かった能力は、平成24年度の1年生(3期生)、平成26年度の4年生(2期生)、平成27年度の3年生(4期生)の前に踏み出す力のみであり、それ以外の能力では他大学と同等かあるいは高かった。特に、5期生は1年次から3つの能力と総合スコアが他大学より高かった。また、1年次と2年次では考え抜く力が、3年次と4年次ではチームで働く力が他大学より高かった。複数年受検した1期生、3期生、4期生において、チームで働く力と総合スコアは順調に上昇したが、3期生と4期生において、前に踏み出す力が2年次より3年次の方が低かった。5期生は他期生より能力が高く、2期生は他期生より能力が低かった。

本学科の学生は、本学での学生生活によって、チームで働く力や考え抜く力を他大学より順調に伸ばしているが、前に踏み出す力の伸長に問題がある。

## P-21 歯科診療所のウェブサイト掲載情報等に関する検討

○磯部 彩香、日高 勝美

九歯大・口保管理

福岡県内の都市部における歯科診療所のウェブサイトを用いた情報提供の実態に関して、経年変化を調査するとともに、審美歯科を例に保険外診療に関する掲載情報における課題について検討を加えた。

北九州市小倉北区及び福岡市博多区の歯科診療所を対象に2014年度及び2015年度のウェブサイトの開設状況、掲載情報の内容等を調査した。また、保険外診療に関する掲載情報の課題を把握するため、厚生労働省が示している医療機関ホームページガイドライン(以下、「ガイドライン」という)や既存の調査結果等を参考に検討を加えた。なお、本調査の一部は平成27年度九州歯科大学口腔保健学科卒業研究において、口腔保健学科4年生との共同研究として実施した。

歯科診療所のウェブサイト開設率は福岡市博多区で前年度より増加しており、保険診療に関する情報掲載の割合は両地域で前年度より増加していた。歯のホワイトニング等の審美歯科に関する情報については、ガイドラインの基準に抵触すると危惧される事例が散見された。

都市部では年間の歯科診療所の廃止や新規開設が比較的多いことから、ウェブサイトの開設率や掲載情報の変動に影響していることが考えられた。また、審美歯科に関する掲載情報の実態から、ガイドラインの周知が十分でないことが考えられた。

都市部の歯科診療所におけるウェブサイト開設率、保険診療に関する情報掲載の割合は比較的短期間で変動していた。また、審美歯科に関する情報には妥当性を欠く事例が見受けられ、ガイドラインの周知が十分でないことが示唆された。